

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業）「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究」（研究代表者：松井珠乃）

分担研究 STI サーベイランスの評価と改善

研究分担者 中瀬克己(岡山市保健所長)

研究要旨 本年度は以下の研究を行った。

STI 発生動向調査活用ガイドラインの普及や研修等地方自治体サーベイランス担当者の支援、として、1. 担当者研修会等にて周知：地衛研公衆衛生情報研究協議会にて多くの自治体関係者に周知がはかれた。昨年度作成した本ガイドラインと普及に関する論文が、性感染症学会より奨励賞を受賞し、性感染症に関わる臨床医等への認知に寄与した。また、近年増加している梅毒アウトブレイクについて東京都が情報還元を強化しているが、分析対応等の支援を行った。2. 自治体による性感染症サーベイランスの活用、対策や上記ガイドライン利用状況等のアンケート調査：性感染症に関してアウトブレイクとの認識や対応の具体策が十分とは言えず、ガイドラインの一層の周知など対策の強化が必要と考えられた。

発生動向調査を補完する動向把握策等の検討、として3. 検査結果サーベイランスの試行：全国の主要検査受託機関から HIV 抗体の WB 法確認検査結果を提供頂き動向を把握し、感染症発生動向調査と比較した。4. 強化サーベイランスによる詳細把握：三重県において発生動向調査より強化した STI サーベイランスを行い、無症状クラミジア感染は男性ではパートナーが有症状を契機とするが女性と較べ少ないなどパートナー健診の意義が推定された。5. オランダではメール、ショートメール等で連絡する手法がカルテの症例データとのリンクにより行われ、サーベイランスデータの精度が向上した。6. England、Weals で行われている性感染症サーベイランスとその対応、特にアウトブレイク対応等について調査した。

研究協力者

山岸拓也、中島一敏、多田有希（国立感染症研究所感染症疫学センター）、中谷友樹（立命館大学）、川畑拓也（大阪府立公衆衛生研究所）、堀成美（国立国際医療センター）、神谷信行、杉下由行（東京都健康安全研究センター）、高野つる代（横浜市磯子区福祉保健センター）、尾本由美子（江東区保健所）、高橋裕明、山内昭則（三重県保健環境研究所）、白井千香（神戸市保健所）、大西真（国立感染症研究所細菌第一部）、樫原摩紀、持田嘉之（株式会社エスアールエル）

A. 研究目的

STI（性感染症）サーベイランスの評価と改善を目的に、

STI 発生動向調査活用ガイドラインの普及や研修等地方自治体サーベイランス担当者の支援、として、1. 担当者研修会等にて周知と協議 2. 自治体における感染症発生動向調査活用の現状把握

発生動向調査を補完する動向把握策等の検討、として3. 検査結果サーベイランスの試行4. 三重県における強化 STI サーベ

イランスによる詳細把握。5. オランダにおけるパートナー健診によるサーベイランス精度向上の評価。6. England、Wealsで行われている性感染症サーベイランスとその対応について調査を行った。

B. 方法

研究方法は各々の報告に記載する。

(倫理面への配慮)

本研究では、個人が特定される情報は扱っておらず研究への参加によって個人が不利益を被るような介入研究は行っていない。

また、倫理面への配慮以外の方法、結果、考察、結論は原則として各項ごとに記載する。健康危険情報、研究発表、知的所有権の取得状況は一括して最後に記載する。

C. 結果 D. 考察

各研究結果は別添の各分担報告を参照のこと。以下に結果の概要を示す。

1. 地方自治体による STI サーベイランスの運用／活用の支援

前年度に作成した「性感染症発生動向調査活用のためのガイドライン」を、研究班および地方衛生研究所公衆衛生情報研究協議会の HP に記載し周知を図った。ガイドライン周知等の報告が日本性感染症学会奨励賞を受賞した。我が国の梅毒報告が増加しており、東京では地方感染症情報センターとして情報発信しているが、サーベイランス結果を踏まえた対応還元方法等に関して協議した。

平成 26 年 1 月 23 日には多くの地方感染症情報センターが設置されている全国地方衛生研究所の部会である公衆衛生情報協議会の開催する研修会で性感染症に関するシン

ポジウムを担当し研究成果全般と併せて周知を行った。また、自治体担当者と協議を行った。

2. 自治体における感染症発生動向調査活用の現状把握

地方感染症情報センター、自治体性感染症対策担当者からのアンケート結果は、梅毒報告の増加を踏まえアウトブレイクに関する認識が高まったと思われる。また口腔を介した感染への対応として、口腔の検査を実施している自治体が少ないながらも増加した。一方、対象の特徴に配慮した情報還元、パートナーへの検査勧奨は前年と大きく変わらず、基本的な考え方、手法やそのための資料等の普及が必要と考えられた。今後、サーベイランス及び対策での最多職種である看護職に適した活用策の提案などが効果的と考えられた。

3. 検査結果サーベイランスの試行

ウイルス検査技術連絡会の協力を得て、全国の性感染症検査結果（クラミジア、淋菌および HIV）を提供して頂き解析した結果、2011 年には HIV 抗体確認検査（Western Blot 法）結果の陽性件数が同時期の全国届け出件数の 78%あり、HIV 発生動向を検査結果から把握できる可能性があることが確認できた。さらに 6 年分の提供を得て分析し、エイズ動向委員会（発生動向調査）の動向と比較的一致しており、保健所等における陽性告知件数を補完し、非常に重要な資料となり得ることが示唆された。保健所等検査を加えても一定程度の未報告があると考えられることから、都道府県ごとに活用による報告率向上にも寄与できる可能性が示唆された。

4. 三重県における強化 STI サーベイラン

スによる詳細把握

三重県において症例ごと報告により検査契機、無症状病原体保有者などを加えた性感染症の強化サーベイランスを継続し、クラミジアは泌尿器皮膚科で8%（11/155）が主にパートナーが有症状で受診し、婦人科では42%が無症状でその半数が妊婦検診で診断されていることが明らかとなった。男女で受診契機が異なること、診断されたパートナーへの対策を検討する必要があること等が示唆された。

女性で淋菌検査数がクラミジアに較べ1／10程度と少なく無症候感染者の報告が少ないこととの関連が示唆され、報告医療機関が行っていたパートナー健診の勧奨による早期発見の意義が推定された。

5. オランダにおけるパートナー健診によるサーベイランスデータの精度の評価

性感染症のパートナー健診におけるフィードバック確認システムの提案と、臨床における標準化のための指針の作成のため、2012年に電子化システムを導入したオランダの公衆衛生部門（アムステルダムとロッテルダムの地域保健センター）を訪問し、標準化と導入の実際および運営上の課題、ユーザーからの評価についてのヒアリングを行った。

従来の方法に加え、電子連絡システムを導入したことにより、患者側の選択肢が増えたことにとどまらず、パートナーがその後実際に医療サービスにつながったかどうか、そこでどのような検査や診断を受けているかを把握でき、サーベイランスデータの精度の向上が確認された。

6. England Wheals における性感染症サーベイランスの状況とその対応について調

査した。わが国と比較検討し報告予定である。

E. 結論

「性感染症発生動向調査活用のためのガイドライン」の活用による地方自治体における性感染症対策の進展を明らかにする。本年度把握された、梅毒報告数増加への自治体の対応に支援が必要であり課題と考えられた。性感染症アウトブレイク対応等、研究成果を地方の担当者に周知し活用を図る必要がある。

検査結果の経年的変化を得て HIV 感染症に関する発生動向調査結果と比較する事により発生動向調査の評価を行うと伴に自治体施策での活用を進める。

パートナー健診の推進による診断困難者における性感染症動向把握への寄与を更に検討する必要がある。

F. 健康危険情報

感染症発生動向調査による梅毒報告が、全国および一部自治体で増加している。

G. 研究発表

1. 論文発表

地方自治体における感染症発生動向調査関連業務の改善を目的とした性感染症発生動向調査活用ガイドラインについて 山岸拓也、尾本由美子、川畑拓也、白井千香、高野つる代、多田有希、中島一敏、灘岡陽子、堀成美、宮原愛理、持田嘉之、山内昭則、中瀬克己 日本性感染症学会誌、Vol.24, No.1 57－62 2013

京都府と大阪府における 2010-2011 年に分離された淋菌株の性状解析

志牟田健、飛田収一、伊東三喜雄、藤原光文、上田朋宏、亀岡博、古林敬一、川畑拓也、大西真 日本性感染症学会誌、Vol. 23, No.1 83-89 2012

川畑拓也、長島真美、貞升健志、小島洋子、森 治代、HIV 急性感染期の診断における第4世代HIV迅速検査試薬の性能評価、感染症学雑誌、2013、Vol. 87, No.4 431-434

Kojima Y, Kawahata T, Mori H, Furubayashi K, Taniguchi Y, Iwasa A, Taniguchi K, Kimura H and Komano J. Prevalence and epidemiological traits of HIV infections in populations with high-risk behaviours as revealed by genetic analysis of HBV. *Epidemiol Infect.* 2013,141, 2410-2417.

Ken Shimuta, Magnus Unemo, Shu-ichi Nakayama, Tomoko Ishihara, Takuya Kawahata, and Makoto Ohnishi, on behalf of the Antibiotic-Resistant Gonorrhea Study Group. Antimicrobial resistance and molecular typing of *Neisseria gonorrhoeae* isolates in Kyoto and Osaka, Japan in 2010-2012: intensified surveillance after identification of the first high-level ceftriaxone resistant strain (H041) with high-level ceftriaxone resistance. *Antimicrob. Agents Chemother.* 2013 Nov;57(11):5225-32.

Tomoko Morita-Ishihara, Magnus Unemo, Kei-ichi Furubayashi, Takuya Kawahata, Ken Shimuta, Shu-ichi Nakayama and Makoto Ohnishi. First treatment failure of gonorrhoea with azithromycin 2 g in Japan - caused by the

internationally spread multidrug-resistant gonococcal ST1407 clone. *Antimicrobial Chemotherapy.* (投稿中)

2. 学会発表

WB 法 HIV 抗体確認検査数陽性数による HIV 診断動向把握の検討 中瀬克己、山岸拓也、中島一敏、多田有希、尾本由美子、神谷信行、灘岡陽子、川畑拓也、白井千香、山内昭則、高橋裕明、堀成美、持田嘉之、中谷友樹、大西真 日本エイズ学会、2013 年

地方自治体における感染症発生動向調査の業務を支援する性感染症発生動向結果活用ガイドラインについて、 山岸拓也、尾本由美子、川畑拓也、白井千香、高野つる代、多田有希、中島一敏、灘岡陽子、堀成美、宮原愛理、持田嘉之、山内昭則、中瀬克己 日本性感染症学会、2012 年

性感染症感染者パートナーへの公的検査における働きかけ 中瀬克己、堀成美、尾本由美子、高橋裕明、川畑拓也、山岸拓也、中谷友樹、神谷信行、白井千香、持田嘉之 日本性感染症学会誌、2012 年

HIV 感染症・性感染症サーベイランス結果の地方自治体による活用の評価、日本エイズ学会誌、2012 年

中瀬克己、山岸拓也、尾本由美子、高橋裕明、山内昭則、白井千香、川畑拓也 大阪府内の HIV 感染症の流行状況と対策について

川畑拓也、森 治代、小島洋子、第 53 回日本社会医学会総会、高槻市、2012/7/15

平成 23 年度大阪府内淋菌薬剤感受性調査結果

亀岡 博、古林敬一、安本亮二、川畑拓也、志牟田健、大西 真、第 192 回公衛研セミナー、大阪市、2012/6/20

川畑拓也、中瀬克己、山岸拓也、中島一敏、多田有希、尾本由美子、神谷信行、灘岡陽子、白井千香、山内昭則、高橋裕明、堀成美、持田嘉之、中谷友樹、大西真

大規模検査会社の HIV・WB 法による陽性数について

第 27 回公衆衛生情報研究協議会研究会

シンポジウム、2014

高橋裕明、福田美和、奈良谷性子、山内昭則 三重県独自の調査様式による S T I サーベイランス、公衆衛生情報研究協議会、2014 年

H. 知的所有権の取得状況 無し

G. 知的所有権の取得状況 無し